

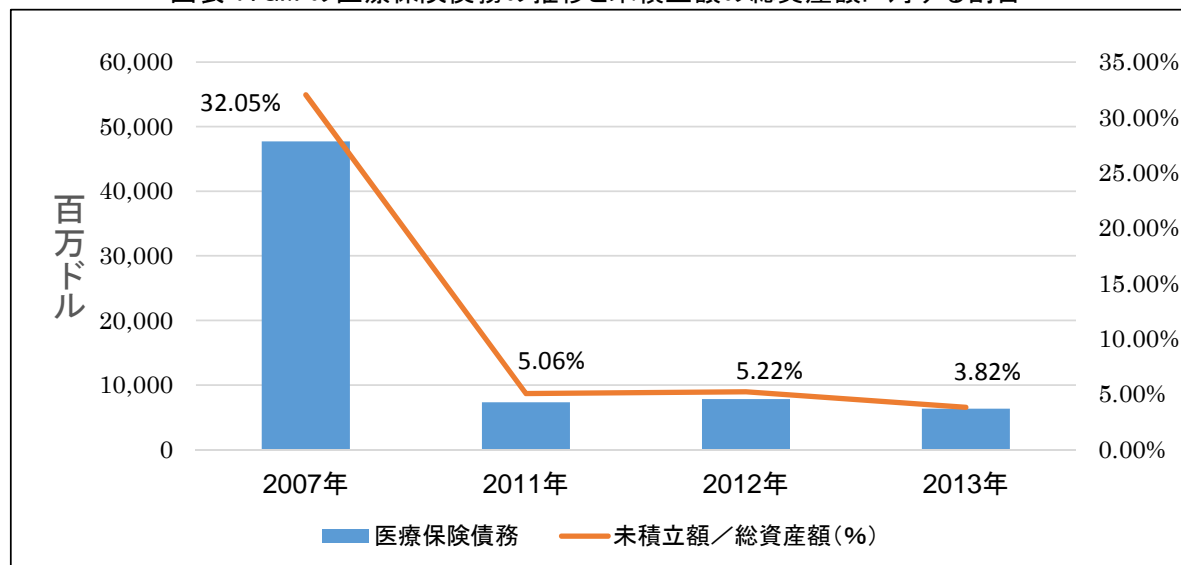
(企業年金)：レガシー・コスト（負の遺産）の影響

経営再建中の GM におけるレガシー・コストは、医療保険についてはある程度解消されているものの、企業年金に関する負担は未だに大きい。GM の事例は、企業年金の切り離しが那么容易ではないことを示している。

日本では、多くのニュースに紛れてしまい大きく取り上げられることはないが、米国の大手自動車会社 GM (ゼネラル・モーターズ) がリコール問題により再び苦境に陥ろうとしている。イグニッション・スイッチの不具合による死者が少なくとも 13 人はおり、さらに 2001 年から会社内でこの問題は認識されていたにもかかわらず、当局に報告されていなかったことが明るみになった¹。現時点 (2014 年 7 月 1 日) において、今年累計リコール台数は 2,900 万台に達している。これは過去の年間リコール台数の記録を大幅に上回るものである。今のところ、このリコールが販売数や株価の下落には繋がっていないものの、今後の経営悪化が懸念される。

GM は 2009 年 6 月に Chapter11 (アメリカ合衆国連邦倒産法第 11 条) に基づく破産申請を経て国有化され、2010 年 11 月に再上場を果たした。その後は、まだ安定はしないものの、赤字を一度も出さず、比較的堅調な業績で推移している。GM が破綻に追い込まれた原因の一つとして、退職者に対する企業年金や医療保険の負担が大きく、それが経営の足枷になっていることが取り上げられた。いわゆるレガシー・コスト (legacy cost: 負の遺産) である。ここでは GM の現在のレガシー・コストの状況を見てみる。2008 年 9 月のリーマン・ショックに端を発した金融危機による影響や、米国政府によるつなぎ融資の実施から Chapter11 を申請する 2009 年 6 月までは GM にとって混乱期であるため、2007 年のデータ (破綻前) と再上場以降の医療保険・企業年金関連のデータを比較する。

図表 1: GM の医療保険債務の推移と未積立額の総資産額に対する割合



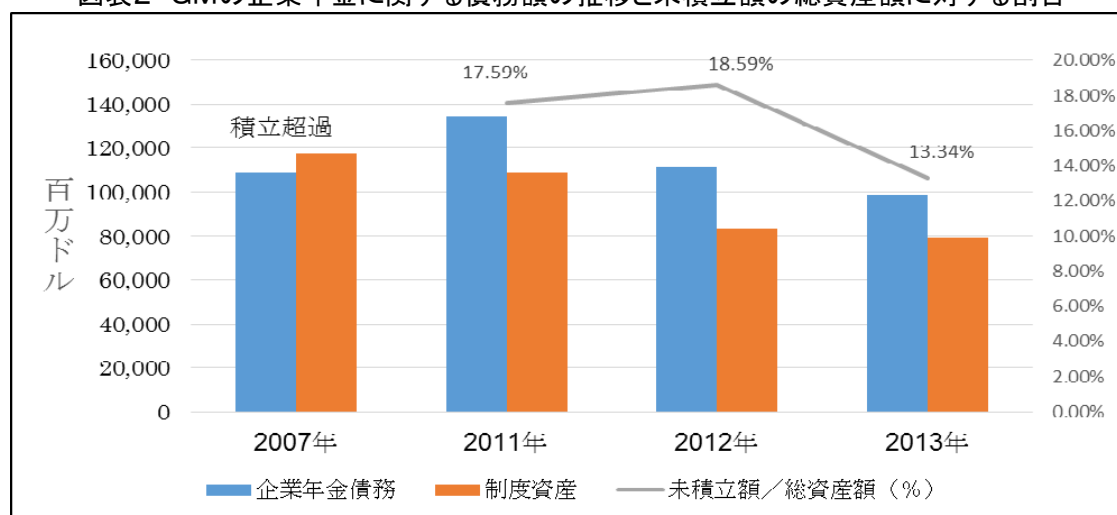
(資料) 各期のアンニュアル・レポートにより作成

(注) 2007 年の数値は、制度資産の数値を差し引いた 47,710 百万ドルを使っている (純額は、64,013 百万ドル)。2007 年においては医療保険債務に対する制度資産が 16,303 百万ドル積み立てられていた。他の年では積み立てられていない。

図表1は医療保険に関する債務額の推移、未積立額の総資産額に対する割合を示している。GMは破綻時に医療保険制度をUAW（全米自動車労働組合）が運営するVoluntary Employee Beneficiary Association（任意従業員福利厚生基金）に移管し、退職者に対する医療給付の負担を母体企業から法的に切り離れた。そのため、医療保険に関する債務額は大幅に減少する結果となった。

一方で、図表2は企業年金に関する債務額の推移、未積立額の総資産額に対する割合である。意外と思われるかもしれないが、2007年時点においては、GMは積立超過の状況であった。GMは企業年金制度の改編に着手して、確定給付企業年金を廃止する一方で、2009年10月に確定拠出年金を導入し、2007年9月以後に雇用した従業員を加入させている。2012年6月1日に、退職者を対象にした年金バイアウトを行い、退職者11万8千人のうち4万2千人に対しては、一時金による精算を行い、残りの退職者に対しては法的に年金を分離し、引受保険会社であるプルデンシャルに移管した。この取引によっても、現役社員等の分が残るため、企業年金制度の債務は、医療保険債務ほどには削減できていない。企業年金債務はピーク時に比べて減少しており、その意味では減っているように見える。ただし、未積立額の総資産額に対する割合からは、未だにGMにとっては重荷になっていることが分かる。

図表2 GMの企業年金に関する債務額の推移と未積立額の総資産額に対する割合



(資料) 各期のアンニュアル・レポートにより作成

GMの企業年金債務には、新しい加入者が今後入ってこないため、負担額は将来的に減っていくであろう。ただし、確定給付年金を閉鎖したのは2012年であり、まだそれほど年数は経過していない。これから企業年金を受け取る加入者（従業員）も相当程度おり、未積立額の総資産額に対する割合も小さくない。もしGMの業績が再び悪化すれば、レガシー・コストの問題が再び表面化することになる。

(静岡県立大学 経営情報学部 上野 雄史)

i 最新の情報はCNNなどの米国のニュースが豊富である。日本経済新聞の記事としては、2014年7月1日付の記事がある。見出し：『GM、845万台追加リコール 14年累計2900万台に』（WEB版）